

国体開催と県勢発展にユメかけて

ことしも県下五カ所で移動県庁ひらく



移動県庁の幕開けは、県警音楽隊による国体音頭から…。隊長の歌唱指導で、はじめか細かった歌声も、しだいに高くなっていった。

県政に 関心を寄せる 人々



知事は、北上山系の開発を軸に30年後の岩手の飛躍に夢を架け、県勢発展意欲の高揚をうたっていた。



相談室も開設され、農事、健康交通事故など親身の相談風景がみられた。

の高揚を訴えられ、住民側は、「県会議員になったつもり」で県政の滲透を訴える……。

ここ岩手郡玉山村は、広大な岩手山麓の水田地帯と外山高原の放牧地美しい景観の八幡平と岩洞湖、医師のいない辺地……をかかえるだけあって、論議の中心は、もっぱら米づくりと肉牛生産の将来、観光道路の整備、医師確保、といった問題に集中。県がうたう北上山系の開発に、主体的にとりくもうとする村びとたちの熱気がうずまいていた。

ことしの移動県庁は岩手郡玉山村をかきわきに、東山、大東、大野、普代の五町村でひらかれた。

移動県民室の名のもとに昭和三十五年にスタート。そのご千田県政のたん生とともに、対話県政の実をあげようと知事みずからのりだし、昨年からは、名称も移動県庁とかわった。県庁の部局がずらり顔をそろえるのは圧巻。事が県勢発展意欲



質問や意見は、土木・農業・医療問題に集中。〈70歳の青年知事〉、〈バッファローのような闘志〉とほめあげてから陳情に転ずる一幕もあつたりで、真剣さの中にもユーモアが笑いを誘う。



主婦の関心を集めたキッチンカーによる栄養料理の実演指導。

降りしきる大雨にもめげず集まった人々で、中学校の体育館は満パイ。役場で予想した人員を大幅にこえ、あわててゴザまでもち出し座ってもらうしまつ。

